



交流拠点として中庭とつながる



音楽教室棟が回遊動線を生む

早くから音楽教育の変革に取り組んできており、学校運営においても年間二〇〇回以上のコンサートを開催するなど、近隣に対して積極的な姿勢で交流を深め溶け込んでいく思想を持たれていることを伺い、初めてこの周辺コンテクストにおいてこのデザインが採用された理由に合点がいく。

シンプルな形態はより精緻なディテールによって支えられている。全体としては卵型シェルと赤いキューブとそれを繋ぎゲート動線を規定するガラス屋根の三要素で構

地域に根差し、幼稚園から大学まで一貫した多様な音楽教育を繰り広げる学園の核となる施設の増築である。最寄り駅から徒歩でアクセスしてくると、次第に学園内の建物が目に入ってくる。その中

選評

でもひとときわ目を引くのが、この赤い壁を背にした銀の山。どちらかというと住宅系のコンテクストの中で、それも近隣に接するいわばウェルカム広場ともいえる場所に、なぜこのように形態・色彩共際立った派手な建築を？という疑問が真っ先に浮かんでくる。

当施設の計画前、正門を入って

から各施設へのアプローチ動線が無秩序に交錯していた。それが、この二棟の完成後はシルバーマウンテンの曲線に沿って人の流れが自然に誘導され、レッドクリフの壁によって柔らかく受け止められる。この二つの建物が空間にオーダーを生み出しているのである。

建物の機能もリハサルやコンサートが催せる音楽教室棟（シルバーマウンテン）と学生や外部へのサービスを提供する事務棟（レッドクリフ）となっており、まさに目指していた「学園と社会の接点『キャンパス・ノード』の創生」を実現している。建築主は近年の音楽ジャンルの多様化に合わせて



洗足学園音楽大学 Silvermountain & Redcliff(e-cube)



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計・施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。

この賞は、1960年にはじまり2018年で59回を数えます。

< 2018年 第59回 BCS賞受賞作品 > 太田市美術館・図書館 高知県立高知城歴史博物館 コープ共済プラザ 新豊洲 Brillia ランニングスタジアム すみだ北斎美術館 洗足学園音楽大学 Silvermountain&Redcliff(e-cube) 空の森クリニック 高崎アリーナ 多治見市火葬場 華立やすらぎの杜 立川市立第一小学校・柴崎学習館・柴崎図書館・柴崎学童保育所 デンソーグローバル研修所・保養所「AQUAWINGS」日本無線先端技術センター パナソニック スタジアム 吹田 羽田クロノゲート 益子町地域振興拠点施設「道の駅ましこ」

【特別賞】名駅一丁目1番計画（JRゲートタワー、JPタワー名古屋）

建築主 より「挑戦」

洗足学園は関東大震災直後の困難な時期に、当時としては稀有な女性の自立を支える教育の場として創立されました。現在では幼稚園から大学院までを擁する総合学園に成長いたしました。困難な時代を生き抜いた挑戦の精神は今に継承されています。

今回BCS賞を頂戴したシルバーマウンテン(合奏施設)とeキューブ(管理棟)は、正門正面の「一丁目一番地」に建てるため、学園の顔とする、という強い想いが込められてい

ます。建学の精神に通底する「チャレンジング」な姿勢、音楽にも通じる高い芸術性、更には学生に愛されるという欲張りな建物が生まれ、そしてこの建物が生まれたのです。

以来、学生たちは嬉々として音楽を奏で、感性を育て、また、ユニークな形態から地域にも愛される施設となりました。今後もこの施設を通して、本学の精神と音楽が継承されていくことを切に願っています。



学校法人 洗足学園
理事長
前田 壽一
Toshikazu Maeda

設計者 より

学園と社会の接点 「キャンパス・ノード」の創生

多様な施設が成熟した音楽教育の学び舎において、今回、キャンパス再編の起点として、全体に秩序をもたらす、社会との接点の役目を果たす「キャンパス・ノード」が必要とされました。敷地は、既存建物に囲まれたゲート付近で様々な動線が交錯する場所です。外部からのアクセスを迎え多様なアクティビティを促すために、リハーサルや演奏会が催せる音楽教室棟と、学生にサービスを供する事務棟に分けて配置し、その間を主要動線とし周

囲にも回遊できる環境を創出しました。

建築の形態や空間が学生達の感性に響くことを目指し、自由曲面とキュービクルな形態、シルバーとレッドの色彩対比、それらをもたらす多彩な内部空間の構成に意を用いました。企画段階より、k/o design studioの押野見邦英氏にデザイン監修していただきながら、学園・設計・施工の三位一体で取り組み、ここに学園の想いを結実させることができました。



鹿島建設株式会社
建築設計本部
グループリーダー
上岡 修
Osamu Ueoka

施工者 より 3Dパースを忠実に再現する

学園の想いがこもった3Dパースを忠実に再現することが今回施工者に求められたことでした。シルバーマウンテンの自由曲面の形状、ステンレス文字葺きの割り付け・縦ハゼのグラデーション、RC曲面壁、レッドクリフ(eキューブ)のシンプルなキューブ形状、30mを超える直線のスチール庇等々、ディテールの検討とそれを施工する際の精度確保が課題でした。3Dパースでデジタルに示され

たデータを、いかに職方の技術に変換するか、机上での検証、技術的な裏付け実験、実物大のモックアップ等を実施し、試行錯誤を繰り返して実現にこぎつけました。最先端のデジタル技術と職方の繊細な手仕事による技術の融合の結晶が今回のBCS賞に繋がったと思います。学園のシンボルとなるような建物の建設に携われたこと、三位一体での取り組みが評価され受賞したことに感謝いたします。



鹿島建設株式会社
横浜支店 建築部
建築工事管理グループ
グループ長
(当時：工事事務所 所長)
沖塩 政志
Masashi Okishio



RC曲面壁が上質な音響を創り出す

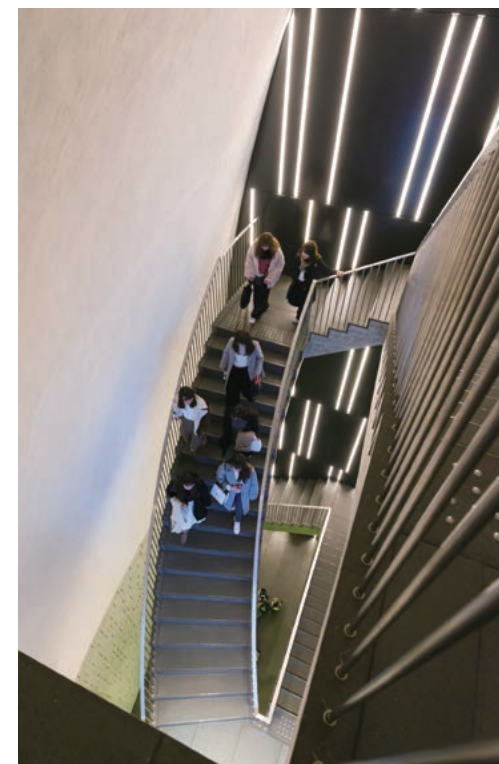
成されている。卵型シェルのRC躯体はFEM解析により構造の詳細断面を決定し、自由曲面の外装は3Dモデル解析により約七、八〇〇枚のパネリングとなり、そこに意匠性と施工合理性両面から検討を重ねてステンレス文字葺きで実現されている。一方のキューブは三種類の赤いモザイクタイルで覆われシンプルな形状の中にも深みのある奥行きが感じられる。挙動の異なる二棟を繋ぐガラス屋根は繊細なエキスパンションジョイントと雨水処理のディテールにより精密且つミニマルな接合部の表情を呈している。スタジオ／コンサートホールに求められる音響機能にも最適な計画・技術により

高度な環境が形成されている。まさに建築主がこの地で培ってきた歴史と思想に基づき新たに抱いた願望に対し、設計者・施工者一体で取り組み見事にその期待に応えたプロジェクトである。

【選考委員】
山本圭介・山本茂義・賀持剛一



学生たちが行き交う二棟間の通路



共用空間が多様な時間を演出する

計画概要

建築主：学校法人 洗足学園

設計者：鹿島建設(株)
k/o design studio

施工者：鹿島建設(株)

所在地：神奈川県川崎市高津区久本 2-3-1
竣工日：2013年8月9日

敷地面積：65,744㎡
建築面積：1,437㎡
延床面積：5,084㎡

階数：地上5階、地下1階、塔屋1階
構造：鉄筋コンクリート造